令 和 7 年 度 の ま と め

1　生徒の成長、学びの深まり

(1)　「トライやる・ウィーク」の１週間が「充実していた」,「またやりたい」の割合は昨年度と比べ微増。過去４年間とも同程度で推移しており、生徒は事業所での活動に意欲的に取り組み、充実感を得ることができたと言える。

(2)「働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた」は昨年度と同程度であり、生徒は事業所の活動を通して、働くことの意義を実感できたと思われる。

(3)　「社会のルールやマナーの大切さを感じた」「コミュニケーションの大切さを感じた」は過去４年間の中で最も低い数値であるが、肯定的な意見が多い。「トライやる・ウィーク」を通して、人間関係の深まりにおいて大切なことを学べたと考える。

≪生徒アンケートより≫

	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
充実していた	85.6%	84.9%	82.5%	85.2%
またやりたい	76.1%	74.7%	76.2%	77.6%
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	88.0%	88.8%	88.2%	85.5%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	68.6%	69.5%	72.4%	71.3%
コミュニケーションの大切さを感じた	76.7%	80.4%	83.3%	78.7%

2　家庭への影響

(1) どの項目も過去４年間同程度で推移している。「機会があればまた参加させたい」と回答した保護者の割合が９０．１%である。「トライやる・ウィーク」が保護者にとって子どもの成長を実感できる機会となっていると考えられる。

(2)「子どもとの会話が増えた」と回答した保護者の割合が７５．２%で、「トライやる・ウィーク」が、家庭でのコミュニケーションのひとつとなっていると考えられる。今後も、家庭と連携した取り組みを充実していくことが重要である。

(3)「保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた」と回答した生徒の割合が５７．６%である。学校での事前・事後指導の工夫や、学校・地域・家庭が連携しながら生徒の活動を支えることができたと考えられる。また、働くことを通して、楽しさとともに大変さを知り、保護者に感謝の気持ちをもった生徒もいた。今後も、生徒が保護者や地域社会の大人との関わりを深く考える機会を設けることが重要である。

	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
機会があれば、また参加させたい　【保護者】	90.1%	88.5%	89.5%	91.1%
お子さんとの会話が増えた　【保護者】	75.2%	76.6%	76.3%	74.6%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた【生徒】	57.6%	57.8%	58.0%	53.0%

※【保護者】は保護者アンケート項目、【生徒】は生徒アンケート項目

３　地域の教育力

⑴ 今年度の「トライやる・ウィーク」実施にあたり３０８の事業所に登録していただき、２１２事業所で生徒は活動させていただいた。参加生徒の希望達成度は、第１希望の生徒が６７．６%、第２希望とあわせると、７８．９%の生徒が希望に沿った事業所で活動できた。生徒の希望が叶うよう、社会の状況をみながら事業所確保に向けた啓発をしていく必要がある。

⑵ 来年度も協力いただける事業所が８９．３%で、過去４年間で最も低い数値であるが、新たに受け入れを希望している事業所も複数ある。引き続き、地域全体で子どもの教育に関心を持ち、教育活動に参画する契機となっていると考える。

⑶ 多様な生徒の受け入れに際し、学校は事業所と連携を図る必要がある。

⑷ 支援を要する生徒に対する介助ボランティアとして、地域の方を中心に協力いただいている。介助ボランティアが安心して支援を要する生徒の活動に携われるよう、学校と介助ボランティアが密に連絡を取り合い連携を深める必要がある。

		R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
参加生徒の希望状況	第１希望	67.6%	66.0%	64.3%	75.9%
	第２希望	11.3%	13.7%	12.1%	13.6%
来年度以降も協力したい　【関係者】		89.3%	96.2%	97.2%	96.2%

※【関係者】は関係者アンケート項目

４　学校・教職員

⑴「一人一人を大切にした「トライやる・ウィーク」が実施できた」が７６．０%で、「トライやる・ウィーク」の意義を大切にしながら取り組みを進めていることが伺える。「学校と地域社会の関係に有益であった」と回答した割合は６４．０%で「トライやる・ウィーク」を通して、学校と地域が連携し生徒の成長を一緒に支えていくことの重要性を感じられたと考える。

⑵ 「生徒の新たな側面の発見があった」の割合は、７８．０%であり、普段の学校生活とは違う体験を通して、教職員が多角的に生徒のようすや変化を捉えられる機会になっていることが分かる。

⑶ 過去４年間と同様に「トライやる・ウィーク」の経験が、不登校生徒にとっても有意義な体験になっていることが伺える。

	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
一人一人を大切にした　【教職員】	76.0%	70.5%	80.6%	81.9%
学校と地域社会の関係に有益であった【教職員】	64.0%	65.9%	75.0%	79.1%
生徒の新たな側面の発見があった　【教職員】	78.0%	72.7%	77.8%	86.0%

※【教職員】は教職員アンケート項目

≪１年生の時に不登校であった生徒の「トライやる・ウィーク」参加率≫

	R7年度	R6年度	R5年度	R4年度
１日でも参加できた	65.3%	82.6%	65.9%	69.0%
全日参加できた	44.9%	53.8%	34.1%	42.9%